

“いりあい交流 2006 in Japan” (2006/6/5 - 6/22)

企画概要

いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク(あいあいネット)事務局

1. 「いりあい交流」の背景と目的

「トヨタ、ホンダ、サムライ、、だけでなく、イリアイをもっとインドネシアに伝えてほしい！」

2003年7月、日本を短期訪問したインドネシア人ヘダールさんはこう言い残し帰国しました。日本には豊かな森があること、山の神さまがいること、そして、「入会(いりあい)」とよばれる地域資源の共同管理のしくみがあることに衝撃を受けたのです。明治のはじめ、日本の入会林野の多くが、所有権があいまいであることを理由に国有化された経験は、ヘダールさんにとって、インドネシアの経験とピッタリを重ね合わせてみえたといえます。彼は、日本の入会の経験に、インドネシアの山村の人々が直面している課題をとくヒントがあると直感したようでした。

ヘダールさんのこの衝撃・直感をきっかけとして、私たちは、日本とインドネシアの山村の経験をつなぐ「いりあい交流」にとりくんできました。昨年秋には、日本の山村に暮らす実践家、入会に関心をもつ研究者らが、ヘダールさんの活動する中スラウェシ州を訪ね、山村に生きる村人などと交流。そして、きたる2006年6月5日～22日には、中スラウェシで交流した村人やNGO実践家など**6名が来日**し、日本各地で経験を交流しあいます。

「いりあい交流」では、日本の入会を単に情報として紹介するのではなく、生身の人間の「経験」としてつなぎ、国境や職業や世代の壁を越えた「まなびあい」の関係をつくり出したいと考えています。そんな「まなびあい」をとおして、交流に関わる一人一人が、自分たちの暮らしや地域を見直し、現代に求められる「いりあい」(資源の共同管理)と「よりあい」(住民の自治)のあり方を再考し、具体的な実践へとつなげていくことをめざしています。

2. インドネシアから招く人々

インドネシアは、豊かな自然と多様な文化に恵まれた多民族国家です。3000以上の島々に300ともいわれる民族が暮らしています。

中スラウェシは、そんなインドネシアのほぼ中央、「K」の形をしたスラウェシ島に位置しています。6月に来日するのは、スラウェシ島の中部、中スラウェシ州に暮らし、活動する下記の6名の人々です。



ヘダール・ラウジェンさん	男性	弁護士、NGO リーダー
シャフルンさん	男性	NGO スタッフ
イエニ・ランシアさん	女性	マレナ集落女性リーダー
ラングさん	男性	トンブ集落慣習長
ズルキフリ・マムムッドさん	男性	タドゥラコ大学教員
マッフッド・ラマカンパリさん	男性	ドンガラ県村落行政課課長

昨年秋に訪問した集落マレナとトンブから、イエニさんとラングさんも来日します。

マレナ集落は、中スラウェシ州の州都パル市の南約 90km に位置した山間の集落です。人口は 60 世帯（230 人）あまり。村人は焼畑耕作を主な生業としています。焼畑では陸稲、とうもろこし、落花生、とうがらし、バナナなどを栽培。中でも陸稲は、マレナの文化にとって大切な位置を占め、陸稲をめぐるさまざまなタブーや儀礼が今も息づいています。現金収入源としては、かつては奥山で籐を採取したり、砂糖ヤシからヤシ酒をつくる仕事为主だったそうですが、最近は、カカオ、コーヒー、胡椒、丁字などの栽培が増え、焼畑にかわって、樹園が拡大しつつあります。

トンブ集落は、パル市の南東 15km、標高 1000m の山腹に位置しています。人口は約 80 世帯。村人の主な生業はマレナと同様、焼畑耕作です。陸稲の栽培はここでも大切な位置を占め、トンブには、インドネシアでは次々となくなってしまった稲の在来種が数多く残っています。また、トンブには日本の歌垣に似た伝統が今も息づいています。

マレナもトンブも、周りの自然を活かす豊かな知恵とムラの慣習が今も息づいている地域だといえます。しかし、現行の法制度の下では、そういった慣習的な森の利用は「所有権」として認められず、ムラの領域のほとんどが国有林となっています。村人の多くは、暮らしの基盤としている森や土地への権利を持たず、国の制度上は「不法」に耕作・居住している状況にあります。

民主化と地方分権化が進む近年、インドネシアでは、慣習にもとづく森や土地への権利を法的に認知させようとする動きが活発化しています。マレナとトンブでも、村人が慣習的な森林利用のしくみを文書の形で書き起こすなどして、ムラの権利の法的な認知を求める努力をしています。

3. 主な日程

主な日程は下記のとおりです。6月5日（月）～6月22日（木）の18日間、東京、福島、山形、京都、滋賀などの地域を訪ね、交流します。主な訪問地の概要は下記のとおりです。

	月日		主な内容	訪問地
1	6/5	月	朝、成田着。宿舎で休憩。午後からオリエンテーション。関係者との懇親会。	東京都
2	6/6	火	入会の歴史と現状に関するブリーフィング。日本の森と人に関するブリーフィング。夜、勉強会にて報告。	

3	6/7	水	福島県郡山市石筵訪問。集落を歩く。石筵共有林組合、集落の役員の方々	福島県石筵
4	6/8	木	などとの交流	
5	6/9	金	まとめの話し合いと休息	福島県会津坂下
6	6/10	土	山形県飯豊町中津川地区訪問。中津川の森を歩く、感じる。中津川財産	山形県中津川
7	6/11	日	区、中津川むらづくり協議会、山形県源流の森関係者の方々などとの交	
8	6/12	月	流、他。	
9	6/13	火	中津川から京都へ移動。休息	京都市
10	6/14	水	日本の村落自治の歴史と現状を学ぶ。	
11	6/15	木	まとめの議論と記録作業	
12	6/16	金	京都市内で有機農産物の流通組織の取り組みを学ぶ。滋賀県高島市朽	滋賀県朽木・椋川
			木・針畑地区訪問。	
13	6/17	土	高島市椋川訪問。椋川の歩みと取り組みを学ぶ。	
14	6/18	日	朽木の朝市の見学。京都へ移動。	京都市
15	6/19	月	京都大学で成果報告会	
16	6/20	火	休息。まとめの議論と記録作業	
17	6/21	水	まとめの議論と記録作業	
18	6/22	木	閑空出発	

福島県郡山市熱海町石筵

石筵は、安達太良山の南麓、阿武隈川に注ぐ支流の最上流に位置した集落です。人口は140世帯あまり。集落を囲むように、畑、田んぼ、里山、そして奥山が広がっています。この里山のうち、約1000ヘクタールは今も、国有でも民有でもなく、石筵の人々からなる「石筵共有林組合」が管理する「いりあい」の山です。奥山からの清流は、「井戸川」と呼ばれる水路を通じて集落を通り、田んぼを潤しています。石筵では今も、年一回、集落総出で川の「堰上げ」が行われ、水を共同で管理するしくみが息づいています。石筵では、人々が共同で水や森を守り、活かしてきたしくみと経験に学び、交流する予定です。

山形県西置賜郡飯豊町中津川

中津川は山形県の南端、飯豊連峰の北東麓に位置しています。地区の人口は約150世帯。地区内の広大な山林のうち、約11000haは、「財産区」という形で、今も中津川に暮らす方々自身によって管理されています。

中津川は、大正時代、急速に興隆した製炭業などのため、山林の伐採が進んだといえます。そのとき、5年の歳月をかけて住民の総意で策定されたのが、詳細にわたる村有林管理計画。以来、現在にいたるまで、時代は変われども、中津川の森林経営には「森の保全」と「住民全員の福祉」の両立をめざす伝統が息づいています。中津川では、持続的な森づくりと地域づくりをめざした経験と取り組みに学び、交流する予定です。

滋賀県高島市朽木と椋川

高島市朽木と椋川はともに、滋賀県の北西部、琵琶湖に注ぐ川の源流部に位置しています。奥深い山々に囲まれた両地域には、山の恵みを暮らしに活かす知恵や文化がつまっています。朽木では、中スラウェシの山村を訪ねたメンバーの一人である今北哲也さんの暮らす針畑地区を訪ねます。今北さんが、30 年来、針畑の山と人のつきあいの歴史に学びながら、**雑木山の恵みを生業につなげてきた手立て**に学び、経験交流します。椋川では、かつての入会山が割山（個人分割）された背景や、**先駆的な集落営農の歩みや今後の課題**に学び、交流する予定です。

東京、京都

以上の三地域の他、東京や京都では、NGO/NPO 関係者や大学の研究者との交流、マチとムラをつなぐ流通組織訪問、インドネシアの状況を伝える勉強会（東京・早稲田、6 月 6 日 19:00～）、日本での交流から得られたことを話し合う成果報告会（京都大学、6 月 19 日午後から）などを計画しています。

4．日本からの主な参加者・協力者

中スラウェシからの 6 名に加え、何人かの日本人も交流に同行し、まなびあいます。また、各地での訪問受け入れについては、主に下記のような方々に御協力いただいています（敬称略）。なお、「いりあい交流」プロジェクトは、財団法人トヨタ財団の研究助成（アジア隣人ネットワーク）をうけています。

各地域への同行者

家中茂	鳥取大学地域学部
阿部健一	京都大学地域研究統合情報センター
吉野馨子	農村研究者（東京大学研究員）
高田英子	「グラフィケーション」編集者
甲斐良治	農文協「現代農業増刊」編集長
増田和也	京都大学大学院
加藤裕美	京都大学大学院
竹安裕美	元青年海外協力隊員（インドネシア）
島上宗子	あいあいネット
長畑誠	あいあいネット
山田理恵	あいあいネット
松井和久	あいあいネット
壽賀一仁	あいあいネット

各地域での主な協力者

澁澤寿一	樹木・環境ネットワーク協会
吉野奈保子	樹木・環境ネットワーク協会
後藤静雄	石筵共有林組合組合長
古川明勝	石筵地区区長
後藤克己	石筵在住
菅 敬浩	会津坂下「游山窯」主宰
織田洋典	山形県源流の森インター・リター
三森和裕	森林インストラクター
安部弘	緑のふるさと公社（中津川）
今北哲也	朽木在住
井上四郎太夫	椋川在住
是永宙	椋川在住
宮本憲一	元・滋賀大学学長
夏目ちえ	（有）真南風
岡本幸江	インドネシア語通訳・翻訳

5 . 主催・事務局

「いりあい交流」の各地域での交流日程など詳細は、下記の事務局にお問い合わせください。

いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク(あいあいネット)[担当:長畑・島上・山田]

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-17-10 稲穂コーポ 2A

Tel/Fax 03-3204-1316 e-mail: i-i-net@zj9.so-net.ne.jp

<http://i-i-net.seesaa.net/>